

## 「主はあなたのために一つの家を建てる」

## ダビデの生涯Ⅳ

## サムエル記第二 7章 18節～29節

## はじめに

サウル王は、一度はダビデに謝り、ダビデを殺すことをやめました。またダビデを追跡するようになり、ダビデは敵地ペリシテに逃れました。

やがて、サウルとヨナタンはじめ息子たちは、戦死します。

人々は、ヘブロンでダビデをユダ族の王とし、彼は7年6ヶ月治めます（Ⅱサムエル 2:4.11）。さらにダビデは全イスラエルの王になります（5:4-5）。

ダビデの生涯での最も大きな出来事の一つは、神殿建設です。建設はその子ソロモンに委ねられましたが、ダビデには神殿建設の思いが与えられ、そのための準備をします。

## 1 神殿建設への思い（7:1-2）と、神の答え（5-16）。

## （1）私は杉材の家に住んでいるのに。

ツロの王ヒラムは、ダビデのために、杉材、石工、大工を送り、王宮をたてました。

ダビデは、自分の家が立派に建ったのに、神の箱が天幕にとどまったままでいいのかと考え、神殿建設を思い立ち、預言者ナタンに相談しました。ナタンは、ダビデの思い通りにするように言いますが、主はナタンに主の思いをお告げになりました。

## （2）彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしはその王国の王座をとこしえまでも堅く立てる（13）。

主は、ダビデが神殿を建てるのをお許しになりませんでした。それはなぜでしょう。主はダビデに、「あなたは多くの血を流し、大きな戦いをしてきた。あなたはわたしのために家を建ててはならない。あなたは、わたしの前に多くの血を地に流してきたからである」と言われたのです（Ⅰ歴代 22:8）。

神殿建設は、その子ソロモンによって行われると主は言われました。「あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちとともに眠るとき、わたしはあなたの身から出る世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしはその王国の王座をとこしえまでも堅く立てる」（7:12-13）。

主は、とこしえの王国を約束なさいましたが、ソロモンの後、王国はユダとイスラエルに分裂し、やがて両国とも滅びてしまいます。

主の約束は、実現しなかったのでしょうか。それは、神の子イエス・キリスト

によって実現します。

イエス・キリストによって実現した神の国は、現在、教会として世界中に発展しています。そして、この神の国は永遠に滅びることはなく、ダビデへの約束は、確かに実現したのです。

**適用：**祈りは聞かれないことがあります。それは神様が聞いていないのではなく、その願いを聞くことが神様のみこころでないときです。

ダビデの場合もそうでした。神殿を建てるということは、みこころでしたが、ダビデがそれを建てることは、みこころではなかったのです。

私たちも、聞かれない祈りがあることを知り、いつも神様のみこころなることを求めていきましょう。

## 2 このしもべは、この祈りをあなたに祈る勇気を得たのです (27)。

(1) あなたは、ご自分の約束のために、あなたのみこころのままに、この大いなることをすべて行い、このしもべにそれを知らせてくださいました (21)

ダビデは、自分の祈りが聞かれなかったことで、がっかりしたでしょうか。

ダビデは、自分がどのような者かをはっきり知っていました。「御目には取るに足りない者」です。「あなたに何を付け加えて申し上げることができましょう」(19-20)。

そして、神様のは「ご自分の約束のために、みこころのままにすべてを行なわれる」方であることを認めていました。ですから、ダビデは、少しも揺らぎませんでした。

(2) この祈りをあなたに祈る勇気を得ました (27)。

ダビデの「祈る勇気」は、どこから来たのでしょうか。それは、主の約束です。ダビデは「このしもべとその家とに約束されたこと」(25)、「わたしが、あなたのために家を建てると言われた」こと(27)です。

**適用：**ダビデがここで悟ったのは、自分が神様のために何をするかではなく、神様がみこころのままに何をしてくださるか、です。

神様は、私たちを通して、何をしてくださるのでしょうか。私たちは、もっともっと、神様の働きに目を留めるべきではないでしょうか。神様がさがみのキリスト教会を通して、何をしてくださろうとしているのか。その神様の働きのために私たちをお用いくださいと。

## 結論

今朝は、ダビデに神殿建設の思いが与えられたこと。しかし、神様はダビデにそれ

をお許しにならなかったこと。ダビデはそれを喜んで受け入れ、主のなしたもうみわざを期待したことを学びました。

聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
- 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること。
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
- 4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

### 招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

### 祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私はあなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。

しかし、イエス様は、私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださると言われました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださり、私を新しく生まれさせてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。

アーメン。